



絶滅危惧種のチョウ「オオルリシジミ」を守ろうと、竹田市久住町有氏の住民らが保護を呼び掛け、監視の目を強めています。



牧草地周辺にロープを張る。くじゅうオオルリシジミ保存会のメンバー。竹田市久住町



オオルリシジミ

①オオルリシジミとは、どんなチョウですか？

住民ら保存会 監視カメラやロープ 都野中 生徒 啓発ポスター手作り



牧草地に侵入する車を常時録画できる監視カメラを設置

牧草地には幼虫の餌になるマメ科のクララが生え、毎年この時期に成虫が無い自治会を構成する、くじゅうオオルリシジミ保存会（村田良文会長、93人）15人が牧草地に通じる市道に集合、道沿いにロープを張り、カメラを牧草地の入口に設置。付近に看板12

枚を新たに取り付け、無断での立ち入りを制限した。市や竹田署にも協力を要請しており、村田会長（70）は「大切なチョウは地域の宝。私たちの手で守らなければならぬ」と強調した。保存会は昨年5月、地元小中学生ら約50人を招いて牧草地で観察教室を開催したものの、前日までに確認できた約20匹が突然いなくなっていたという。保存会

久住町

【竹田】絶滅危惧種のチョウ「オオルリシジミ」の保護活動に取り組み竹田市久住町有氏の住民らが19日、牧草地に侵入する車を監視する常時録画のカメラ2台を設置した。愛好家による乱獲は深刻で、昨年は一晩のうちに約20匹が姿を消したという。保護を呼び掛ける看板を増やし、監視の目を強めている。

希少チョウ 守り強化

オオルリシジミ 乱獲深刻

②オオルリシジミが生息する牧草地に監視カメラを設置したのはなぜ？

オオルリシジミ

羽を広げると約3㍻の小型のチョウで、羽の表はやや青みがかった瑠璃色。幼虫はクララだけを食す、生息地は火山草原などに限定される。県内は1970年代を最後に

集記録が途絶え、絶滅したとされた。約10年前に竹田市で生息が確認され、九州大のグループはDNA解析で九州由来種と判断した。県は県条例に基づく希少野生動植物に指定。許可なく捕獲、採取ができず、譲渡や譲り受けも禁じられ、違反すれば罰則がある。

（原田宏一）

は「乱獲された」と判断。危機感を強めた都野中の生徒9人は捕獲防止を啓発する手描きのポスター15枚を商店や病院に掲示した。2年の衛藤美穂さん（19）は「悲しい許せなかった」と振り返る。日本チョウ類保全協会員の川野雅喜さん（70）＝大分市、別府溝部学園短期大非常勤講師＝は「くじゅう連山の麓は貴重な生息地。未来に受け継がなければならぬ」と話した。

③地元・都野中学校の生徒たちは乱獲防止のため、どんな活動をしましたか？

④あなたの住む地域にも希少野生動植物がありますか？調べてみよう。